

狩谷求先生・林好雄先生を送る

経済経営学部長 大森 一 宏

長年にわたり経済学部の発展に尽力され、さらに昨年の経済経営学部の船出から今日に至るまで多大な貢献をされた先輩教員である狩谷求先生と林好雄先生が2014年3月をもって退職される。

この内のお一人である狩谷求先生は、1967年3月に慶應義塾大学経済学部卒業後、東京銀行に入行され、その後ハンブルク支店次長、ドイツ東銀行常務取締役、営業四部長、東京三菱銀行パナマ支店長などの要職を歴任された。さらに、東京クレジットサービス取締役経理・総務部長、文部科学省初等中等教育局主任教科書調査官などを経て、2004年本学経済学部教授に就任された。

本学就任後の先生は、学生ひとりひとりを見すえた愛情あふれる、そして実践的な教育活動に取り組まれた。まず、金融経済教育では「国際金融論」の他に、「ライフプランニング」という講座を立ち上げ、シミュレーションゲームを取り入れるなどユニークな試みを行われた。この講座は、多い年には700人近い受講生が集まり、本学の誇るべき名物授業の一つとなった。また、飯能信用金庫の寄付講座である「金融Today」のコーディネーターを長く務められるとともに、地域インターンシップや飯能活性化プランニングコンテストなど学内のプロジェクト活動の運営にも指導的役割を果たされた。さらに、全学就職委員会の主要なメンバーとして、キャリアセンターと学部教員の懸け橋となり、学生の就職実績の向上に顕著な功績をあげられた。

これらの活動が高く評価されて、先生は本学のプロフェッサーオブザイヤー（2011年度）の最初の受賞者となられた。学生の就職指導などに発揮される先生の冷静ではあるが、きわめて情熱的な取り組みは、学部教員の深い尊敬を集めていたが、そこにはわたしたち後輩教員に対して模範を示しつつ、無言の激励をされる意図も隠されていたのではないかと思われる。今後の学部の教育や地域との連携事業の推進を考えると、先生の抜ける穴はあまりに大きく、定年ということでしたしかたはないものの、残される私たちは率直なところとまどっている。

林好雄先生は、1981年東京大学大学院人文科学研究科比較文学比較文化専門課程修士課程終了後、成蹊大学法学部兼任講師、國學院大學文学部兼任講師などを経て、1990年本学経済学部専任講師に就任された。その後、本学部において1994年に助教授、さらに2003年には教授にそれぞれ昇任されている。

本学ではおもにフランス語関連の授業や演習を担当されたが、兼任校を含む豊富な教育経験を生かし、語学を通じて学生の異文化理解力の向上に努められた。研究業績としては、マラルメやヴァレリーといったフランスの詩人からハイデガーのようなドイツの哲学者、さらには日本の宗教家である道元に関するものまで幅広く論文にまとめられた。文学、哲学、宗教の問題を西洋から東洋まで視野に入れて、広く深く考察を進められるのが先生の流儀なのだと思う。人間性の根源を問う哲学的分野をご専門としていることをこちらが意識するためか、先生の風貌や鷹揚な物腰に、つい昔の哲人の面影を想像してしまうこともあった。それだけに、昨今のどこの大学にでもある風潮、すなわち競争を意識し、期限をきって目に見える成果の提出を求める姿勢などは、とりわけ先生にとってなじみにくいものであったのかもしれない。教授会では、いつも最前列に座られる先生は、学部がかかえるさまざまな問題について自説を開陳される機会も少なくなかった。それは現在の大学をめぐる経営環境を考えると、受け入れられるものばかりではなかったが、その発言には、常に大学人としての重みがあり、そして何よりも嫌味がなかった。

本学部が荒波を乗り越えて進もうとするこの時期に、学徳ともに高く経験豊富な両先生が本学部を去られることはたいへん大きな財産を失う痛手である。私どもは、先生方が本学に残された功績を大切にしながら、今後の学部の発展に役立てたいと思う。先生方の長年にわたる多大なご尽力とご貢献に衷心より感謝申し上げますとともに、今後のますますのご健勝、ご活躍を心より祈念いたします。